

「森の探検隊」プログラムを教員・大学生が体験・検証！！ ～小学生の森林体験学習の充実のために～

箕面森林ふれあい推進センターでは、箕面国有林「エキスポの森」内で取組んでいる「オオクワガタの棲める森づくり」等のフィールドを活用して、ポイントを回りながら自然や社会、理科などに関する設問を解いていく森林環境教育プログラム「森の探検隊」を開発し、箕面市内の小学生が体験しています。このプログラムを多くの教員にも体験してもらい、その活用と充実を図ることを



目的に、7月26日(水)、箕面市教育研究会理科部会と共催で第3回目となる平成29年度「森の探検隊教員等研修」を開催しました。

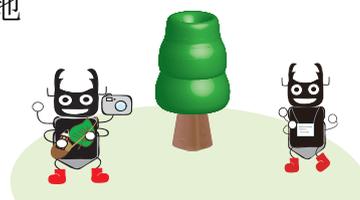
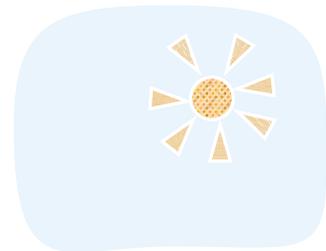
当日は、箕面市内の小学校教員9名、大阪青山大学と京都府立大学の学生2名、京都大阪森林管理事務所職員3名、合計14名が参加。スタッフとして、大阪森林インストラクター会5名、箕面森林ふれあい推進センター4名と、午後からの箕面川ダム施設見学では、大阪府池田土木事務所の挾山主査にお世話になりました。

森の探検隊

5班に別れて、班ごとに決められた探検ポイントを実際に回り、昨年からの改善部分の検証や、教員の目線から新しい設問になりそうなものがないか、また、設問の内容が子ども達に理解できるかなど、与えられた課題に対して班の補助者の森林インストラクターから助言を受けながら体験してもらいました。



教員からは、「森林について、普段とは違う視点で学べた。森林について、もっと伝えていきたい。」等の感想や、「設問やヒントの言葉の表現を今の子ども達が理解できるのか疑問だ、また、答えを導きやすくするために三択問題にしたらどうか」等の意見も出され、まだまだ改善の余地があることを実感しました。



箕面川ダム施設見学

午後からは、大阪府の施設である箕面川ダムに移動して、ダム建設に至るこれまでの経緯やダムの機能、国定公園内に建設されたダムの自然環境保全対策等の説明を受けた後、教員の見線から小学生のダム施設等の見学が可能かどうかも含めて、堤体内部等の施設内を見学しました。

教員からは、ダム建設以降の水害発生の有無やダム湖の湖底に堆積している土砂の取り除き方法やその時期などについて活発な質疑・応答が交わされました。

また、小学生がダム施設を見学することに対しては、一度に全員が会議室や屋上での説明を受けるには狭小、また、堤体内部の見学も階段が急な上に長く危険との意見がありました。

箕面森林ふれあいセンターでは、今後も「森の探検隊」プログラムの充実と定着に向けて、引き続き教員等への働きかけに取り組んでいく考えです。



箕面川ダム

